

第17回（令和2年度第3回）学校運営協議会議事録

日時：令和2年10月31日（土）10：15～12：00

Web会議

出席者（敬称略）

【委員】

- 倉岡 正高（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員）
- 竹下 恭子（横浜市立市ヶ尾中学校長）
- 高桑 誠（本校PTA会長）
- 鈴木 秀幸（青葉区大場町在住）
- 内川 隆（本校同窓会長）
- 田中 多恵（NPO法人ETIC.横浜ランチマネージャー）
- 福田 晴好（翔凜高等学校特別講師）
- 瀬高真一郎（本校校長）

（欠席者）

- 飯島 正徳（東京都市大学知識工学部教授）
- 石井 廣康（横浜市資源循環局青葉事務所所長）

【事務局】

- 米田 朋正（本校副校長）
- 川島 秀生（同 教頭）
- 檜垣 桜子（同 事務長）
- 宮地 広（同 学校運営協議会担当）
- 諸岡 丈幸（同 学校運営協議会担当）
- 大矢 真（同 学校運営協議会担当）

【本校各グループリーダー】

- 吉行 伸（本校カリキュラム開発グループリーダー）
- 本屋敷隆裕（同 キャリア支援グループリーダー）
- 佐藤 淳（同 管理運営グループリーダー）
- 佐野 英樹（同 地域連携・広報グループリーダー）

（欠席者）

- 吉居 英明（同 生徒会支援グループリーダー）
- 伊藤 和久（同 生徒指導グループリーダー）

1 委員紹介（新委員）

内川委員

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 報告・協議事項 《委員○、学校●》

（1）部会の報告について

（ア）部会の報告① 第1回生徒による授業評価について [学校評価部会]

毎年2回行われている調査の第1回の集計結果である。昨年度より質問項目が変更された。今年はGoogle formにより実施された。資料には、最も高い評価4(かなり当てはまる)のパーセンテージのみが示されている。これは、評価3(はぼ当てはまる)も含めると90%近くなり、教科・質問項目による差が明確にならないためである。設問5の評価が低い。新型コロナ感染防止を配慮した授業形態の影響という説明もあったが、昨年度1回目の調査でも同じ傾向があった。全体を見ても、昨年度1回目の傾向としてはほぼ同様であった。各教科で話し合われた改善の手立ても示されている。第2回の調査結果で改善したかは見ていただきたい。

（イ）部会報告② 新たな地域連携の研究について[地域共同部会]

○成人年齢の引き下げに関しては、社会全体でどうなっていくのか不明なところもある。今後4年間で何に取り組んでいくのか、もう少し具体的なリストを頂戴したい。また、生徒が地域で何をやりたいかというもののリストがあってもよい。

●グループの職員で地域企業や学校を回り、アイデアを模索している。今後、グループでまとめて訪問先に報告したい。成年年齢引き下げに関しても何かできることがないか、問いかけをしている。

○連携先が多すぎるのではないか。

●学校については、すでに80%程度行っている。自治会等に関しても管理職がコンタクトをとっている。公共施設、企業等については今後回らせていただく。

○できるだけ早い段階で成功例を作って頂きたい。

○相手にとってのメリットがないと民間との連携は難しい。具体的なビジョンがないと難しいのではないか。教員が行うことに対する抵抗があるかもしれない。

●模索をしながら、少しでもアイデアをいただけたらそれを膨らませていきたい。

○成果が生まれなくても訪問先との関係性は継続してほしい。

○模索をする段階で連携先が多い状況だが、ある程度しぼって継続していけないか。NPOが市ケ尾に拠点をつくってくれたので、その施設を利用しながら、形になっていけばと思っている。

○市ヶ尾ユースプロジェクトは実績を上げているが、その継続性はどうなっているのか。

●NPOとしては継続しているが、本校生徒で参加しているのは数名程度で、特に学校としての位置づけはない。学校は全体としての連携を模索している。今、市ヶ尾中学校とは連携しており、拡げていける可能性がある。

●成年年齢の引き下げにより、高校生は在学中に成年年齢に達する。これは、重大なことで、高校生は成年年齢に達する前に、社会の厳しさ・痛さを前倒して経験しておく必要がある。学校ではできないことがあり、地域との連携が必要である。これから模索・精査していくのには時間もかかるが、この認識を委員の皆さんとも共有できればと考えている。

○連携先は学校より公共施設や企業との連携が多くなるのではないかと。よくしぼって進めた方がよい。

(2) 学校からの報告について

「進路状況」「学校行事」「学校広報活動」「生徒の状況」について資料に沿って報告。学校説明会は、昨年度は8月と12月に行っていた。今年は12月19日(土)のみ予定していたが、webでの申込が定員(1~4回、1,500名)に達してしまい、急遽、12月20日(日)に学校見学会(会議室での説明と校舎案内)を実施することになった。4回までの実施を予定しているが、現在の申し込み状況は2回目までほぼ埋まりかけている。

○3年生の遠足でバーベキューを実施したとのことだが、生徒には感染対策に関してどのような行動をとるべきかを理解してほしい。施設側が用意しているからではなく、生徒に考えさせるという観点で進めているのか。

●感染対策に関しては、学校側から施設側にお願いした。

保護者から「なぜバーベキューをやるのか」という声あった。「新しい生活様式で、どのように行動するべきかを理解する」ことを目的として明示し実施した。

(2) 働き方改革等について

●本校での「働き方改革」の取組について、資料に沿って説明。

○現状がどうなのかが認識され、共有されているのか。現状が認識されていなければ、改善されているかどうかの評価はできないのではないかと。

●タイムカードがあるわけではなく、具体的なデータはない。残っている職員がいることは見て把握しているが、だれが何時間というのは把握できていない。今後、公務で使用しているパソコンのON・OFFで実勤務時間を把握する。具体的な勤務時間の把握はこれから行う。

○年休は取得されているのか。先生は元気でないといけないので、できる限り休みをとっていただきたい。取得は管理されているのか。

●届出があるので把握している。年休は取得されているのではないかと考えている。

○根本的には、国や県が金と人を出さないと改善は無理だと思う。民間でも、定時

あがりによって持ちかえり残業が増えている。働き方改革をやろうとすると、逆に仕事が集中して大変になってしまう人(ICT が得意な人など)がでてきてしまうこともある。勤務時間を意識するという意味でもタイムカードを導入してもよいのではないか。タイムカードを使っている学校はないのですか。

●県のシステムとして、11月頃からパソコンのON・OFFで確認することになる。

○パソコンのON・OFFで把握できるのか。

●タイムカードについてはさまざまな議論があり、パソコンのON・OFFに落ち着いた。教員の勤務を一般の職員の状況に当てはめるとさまざまな不整合がでてくる。本校では、「働き方改革」が学校目標にもなっており、取り組もうとしている。

○今後ご報告していただければと思う。

5 その他 次回開催日の確認